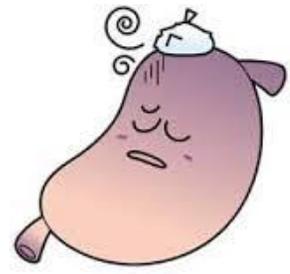


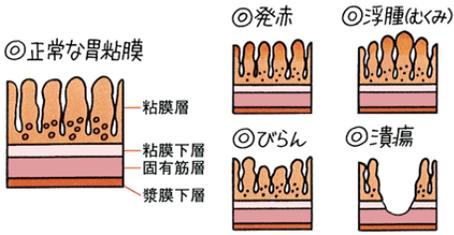
胃内視鏡検査

「慢性胃炎」



私が大学を卒業する頃から十数年間、胃レントゲン検査、胃内視鏡検査(その頃、内視鏡検査が一般的になって来た。)では、早期胃がんが大きなテーマになっていました。どうして早期胃がんをみつけるか、皆が競っていました。

その頃、胃の病変としては、胃がん、胃潰瘍、胃ポリープなどが主で、そのどれでもないものは大して注目されず、ほぼ異常なしという言葉の代わりのように「慢性胃炎」などという病名が使われていました。



その後、胃に長く感染して胃粘膜を荒らし、がんに至る最も重要な役割を果たすのがピロリ菌だというのが分かって来ました。

「胃の病気の治療」



治療の方もどんどん進歩し、胃の酸を抑える薬に強力なものが出て来て、現在では胃潰瘍で手術をすることはほとんど無くなりました。ピロリ菌をころすことも割合簡単になりました。がんも早期のものは、内視鏡を使って胃粘膜の表面を削り取ることができるようになりました。しかし、発見された時すでに胃全体に広がったがんは、手術で取らなければなりません。

慢性胃炎の程度分け

この様な理由で、胃の内視鏡検査の目的は、早期胃がんの発見より、以前はほとんど正常と考えられていた慢性胃炎の程度を決めることが重視されるようになって来ました。慢性胃炎の程度によりがんの発生率が変わることが分かって来たからです。ですから検査に求められる判定法にむずかしさが増して来ています。

その判定が少しでも容易になるよう最近の内視鏡の器械にいろいろ工夫が凝らされています。

	Group A	Group B	Group C	Group D
胃カメラ画像				
胃の健康度	健康な胃粘膜。胃粘膜の萎縮の可能性は非常に低い。	胃潰瘍に注意。胃粘膜の萎縮はない。または軽い。	慢性萎縮性胃炎。胃粘膜の萎縮が進んでいる。	胃がんの可能性。胃粘膜の萎縮が進み過ぎ、ピロリ菌が排除された状態。
ピロリ菌	-	+	+	-
ペプシノゲン値	-	-	+	+
胃がん発症危険度	低			高
胃がん発生率 (年)	0%	約0.1%	約0.25%	約1%
胃がん発生頻度 (年)	ほぼ0人	1,000人に1人	400人に1人	80人に1人

胃体部



インジコカルミン散布

変色観察

通常観察

当院の方針

胃の検査に内視鏡を使う機会がますます増加してくる予想されますので、当院では、なるべく楽に検査が出来るよう心がけています。細い内視鏡を使うことや、鼻から検査を行う事を増やしてゆこうと考えています。



11月・12月の休診日

休診 日曜・祭日  
午後休診 水曜・土曜



直道さん誕生日

年末年始休診のお知らせ

	日曜・祝祭日 休診				水曜日・土曜日 午後休診				
	12/27 (日)	12/28 (月)	12/29 (火)	12/30 (水)	12/31 (木)	1/1 (金)	1/2 (土)	1/3 (日)	1/4 (月)
午前	×	○	休診	休診	休診	休診	休診	×	○
午後	×	休診	休診	×	休診	休診	×	×	休診

1月5日(火)より平常通り診療します。

E・メールを送って下さい。  
norikazu@okutu.jp

みなさんの質問や投稿をお待ちしております。  
☆受付けからのお願い  
月初めには必ず保険証を受付にお出し下さい。  
診察券は毎回お持ち下さい。  
☆編集に当たり校正には十分注意致しましたが、誤字・脱字等がありましたらご容赦下さい。